

午後試験

問 1

問 1 では、ランサムウェア感染をテーマとし、情報セキュリティリーダに求められる情報セキュリティインシデントへの対応及び情報セキュリティ対策の見直しについて出題した。

設問 1 は、(1)、(2) の正答率が高く、ランサムウェアの概要についてはよく理解されていた。しかし、(3) は正答率が低く、ポストペイ式電子マネー又はバックドアを含む誤った選択肢を選んだ解答が多く見受けられた。ランサムウェアについて更に理解を深めてほしい。

設問 2 は、正答率が高く、よく理解されていたが、(1) では“再発防止に要する金額”を含む誤った選択肢を選んだ解答が見受けられた。本文及び設問の中で与えられた条件をよく確認した上で解答してほしい。

設問 3(3) では、バックアップ対象のデータの可用性を確保する方法を問うた。バックアップしたデータが正しく復元できること、又は同時被災を考慮してバックアップ媒体を保護することのいずれかだけの誤った選択肢を選んだ解答が見受けられた。この二つは可用性を高める効果があり、事業継続の観点から重要であることを理解してほしい。

情報セキュリティに関する脅威や対策は年々変化し続けることから、情報セキュリティリーダは、積極的に新たな脅威や対策に関する知識を習得し、部門における情報セキュリティの維持、改善につなげてほしい。

問 2

問 2 では、クラウドサービスを利用した情報システムを導入する場合に、社内の基準や既存のシステムとの関係を考慮しつつ、アクセスコントロールなど必要な情報セキュリティ対策を考える問題を出題した。

設問 1(3) は、正答率が低かった。インターネット経由でアクセスできるクラウドサービスである P システムにおいて、自宅の PC などからの直接アクセスを禁止するには、P システム側で X 社のグローバル IP アドレスだけを受け付ける設定にするという方法が解答群の中では最も有効である。

設問 2(1) 及び(2) は、おおむね解答できていた。X 社の情報セキュリティ対策基準や操作権限の案などを基に、問題文を注意して読めば正解に達するはずである。

クラウドサービス利用が急速に拡大する中で、利用部門が中心となって情報システムを導入することが増えており、利用部門にも情報システムや情報セキュリティに関する基本的な知識が求められてきている。情報セキュリティリーダには、最新の情報技術やクラウドサービスに関する知識を習得し、実務に適用することや、自部門における情報セキュリティ教育をリードすることを期待したい。

問 3

問 3 では、個人情報を取り扱うオフィスの物理的セキュリティについて出題した。全体として、正答率は高かった。物理的セキュリティは身近で触れる機会が多く、なじみもあるので取り組みやすかったようである。

設問 1 は、(1) a の正答率が低かった。この問題は、複合機で個人情報を印刷した後、その印刷物が放置されている問題点に関する改善案を問うものである。案 2 を含む誤った選択肢を選んだ解答が見受けられたが、案 2 は、代替手段を提示せずに印刷を禁止するものであり、業務への影響が大きく、適切とはいえない。情報セキュリティリーダは、利用部門の業務遂行を考慮した情報セキュリティ対策を検討する役割を担っていることを理解してほしい。

設問 2 は、正答率が高かった。鍵や錠は日常的に触れる機会が多く、よく理解されていたようである。

設問 3 は、正答率が高かったが、g では、記憶媒体を持ち込んで情報を窃取する脅威、及びノート PC を盗み出す脅威の両方に効果がある対策として、“コールセンタ内での記憶媒体の使用を禁止する。”という誤った選択肢を選んだ解答が見受けられた。この解答は、ノート PC を盗み出す脅威には対応していない。情報セキュリティ対策が、どのような脅威に対するものであるかを理解することが必要である。情報セキュリティリーダは、利用部門の業務を踏まえて情報セキュリティを維持、改善する役割を担っているということを忘れずにいてほしい。